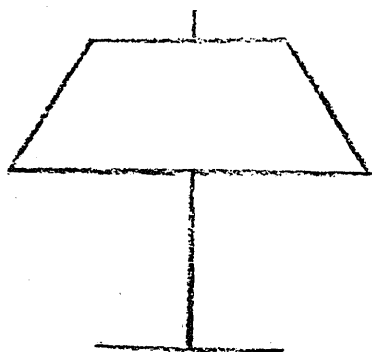


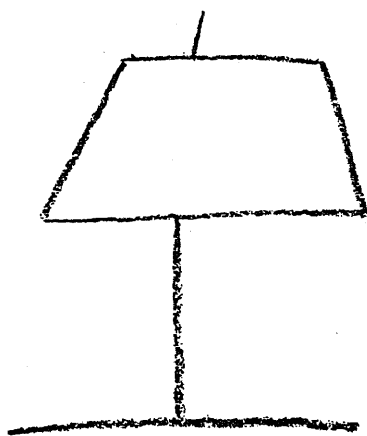
繪の檢定について

岡 田 千 代

幼兒。ほんの物の解りかけたばかりの子供であるが、子供は本當に偉いもんだと思つた、そして主觀的に成り勝な私の檢定は實にむづかしい事だと思つた。



第一圖



第二圖

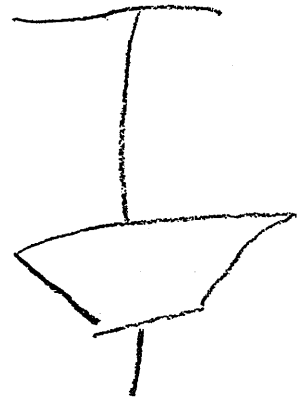
第一圖は問題の電氣スタンドの手本である。

第二圖は理知と感情が一致した優れたものである。

先づ姿勢を正しく手本の圖をよく視て此れは何であるか、何を描くのか、どこから描くか云ふ事を了解して、

判然とした意識で自信をもつて描いたものである、此れには子供の魂が一本／＼の線の中に動いて伸び／＼して力強く見える、どこまでも自分で思ふところまでやる云つた氣持で出来上つてから最う一度見比べたのである。

第三圖はこの時代の子供の心理的特長云ふが、三圖の様に物を反對にしかも安々に描き表はす事の藝度はすばら



第三圖

しいものである、多分自分に一番近いものから順に先きに描いたからだらうと思はれる。

線の味から云へば感情的で中々面白味のある線であるが、こんなのに限つて取つ附が早く、見ながら描く云ふ態度で自信のない描き方をして依頼する氣持が充分に見えるのである。線は感情的であるが腕が伸びてゐないのが多い。

第四圖は、あわてゝ充分に手本を見ないで、いきなり筆を取る、そして唯常識的に最後までほごんご見ないで描くのが多い、それで自分がまちがひを描いたことも氣つかないのである。

したがつて線には目的がないが、かなり自由に手を動かす、意氣地なく腕が動かない云ふのは少なく、無意識に描く云ふのである、したがつて之れは何であるか云ふ事も良く解つてゐない、以上大體三種に分けられるやうである。

* * *

男兒は此の圖を見て飛行機だ、雨傘だ、植木鉢だ等云ふ、女兒はお家だの洋傘だの云ふ、皆夫れゝ自分の生活經驗によつて物を理解しやうとする傾向が見える。

又男兒と女兒を比べて見るに、形が整はなくとも何かを受ける、魂の動くのは男兒である、女兒は美しく上手に描うにするから小さくまごまつて何等動く精神が受取れない。以上二つの事がらは大に考へさせられる諸點であつた。